

かつて伊勢国司であった北畠氏が本拠を置いた美杉町多気地区。その北畠氏の城下の様子を描いた大きな絵図が、美杉ふるさと資料館に展示されています。

この絵図は「多気城下絵図」と呼ばれるもので、縦104センチ、幅220センチの大きなものです。多気の街並みと周辺の山々が描かれており、図の中心には北畠氏の館（御殿）の建物や庭園、その後ろの山には霧山城がみえます。城下にはたくさんさんの寺院や家臣の名前が記載されており、「魚屋町」や「呉服屋町」などの街並みがうかがえる表記もあります。また多気への出入り口となる峠には番所が描かれており、比津・飼坂・白口など8ヶ所の番所がみられます。

残念ながらこの絵図は北畠氏が滅亡した後に描かれたものであり、当時の城下の様子を正確に描いたものではありません。絵図の霧山城には本来はなかった石垣や櫓などが描かれており、後の時代に想像を交えながら描かれたことを示しています。このような不正確な部分もありますが、北畠氏の城下の様子を考える上で手掛かりとなる貴重な資料です。

江戸時代の国学者として有名な本居宣長は、自分の先祖が北畠氏の家臣につながると考え、多気を訪ねて絵図を見たところ、『菅笠日記』に記しているほか、「多気之図」と呼ばれる城下絵図が本居宣長記念館に残されています。このほか、現在県内を中心に40例ほどの多気を描いた絵図

が知られており、繰り返し写されながら様々な写本が残されたようです。これらは縦横の比率や建物などの描き方によって大きく三種類に分類できます。

美杉ふるさと資料館では、こうした様々な多気城下図を集め、9月3日から10月10日まで展覧会を開催します。この機会にぜひご覧ください。（月曜休館、祝日の場合はその翌日）

（広報津）平成23年9月1日号



美杉ふるさと資料館所蔵 多気城下絵図